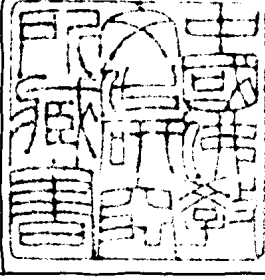
000369

弘法大師 空海全集

第六巻



筑摩書房

訳注者・解説者（五十音順）

今鷹　真（いまたか　まこと）
名古屋大学教授

金岡秀友（かなおか　しゅうゆう）
東洋大学教授

金岡照光（かなおか　しょうこう）
東洋大学教授

牧尾良海（まきお　りょうかい）
大正大学名誉教授

宮坂宥勝（みやさか　ゆうしょう）
成田山仏教研究所次席研究員

村岡　空（むらおか　くう）
詩人・光明寺住職

山本智教（やまもと　ちきょう）
高野山大学教授・高野山霊宝館長

弘法大師空海全集　第六巻

昭和五十九年十一月三十日　初版第一刷発行
昭和六十二年一月五日　初版第二刷発行

編者　弘法大師空海全集編輯委員会
京都市東山区東山七条　総本山智積院内
真言宗智山派
宗祖弘法大師千百五十年御遠忌奉修局
代表　高野一能
編輯代表　宮坂宥勝

発行者　布川角左衛門

発行所　筑摩書房
東京都千代田区神田小川町二ノ八
郵便番号　一〇一―九一
電話　東京(291)七六五一(営業)
東京(294)六七一一(編集)
振替　東京　六―四一二三

印刷　株式会社精興社
製本　株式会社鈴木製本所

落丁・乱丁本はお取替致します

Printed in Japan　0315―77006―4604

驚聲招歸卷 并序

驚龜毛先生論

處士隱士論

假名乞此論

觀無常賦

生死海賦

夫列鼎餘趣，泛虎嚼果

雨霧霏霏，待兔離是以翻

丹鳳翔，必有由豫，赤

龍感條來格是故詩人或

偕宴樂以奏娛意或懷慮

吟而賦憂以視賢能以馳

褒讚聚愚慈而非議箴之

人有工於詞有妍於曹建之

詩未免齟齬沈休之筆於

多病果復有唐國張文成

著散勞書詞實瓊玉筆翔

寶鳳但恨濫俗溷事曾無

寶鳳但恨濫竽滑稽耳雅詞白卷錚紙柳下興歌
臨文味句桑門皆動乘朝
日雄人述睡覺記勝雖巧發
詭言雲敷遍閒彼名尸居
之士拍掌大笑徒對其字
噤瘂之人張口擊聲並難
先人之遺美未足涤滅之準
的余恨高志妙辯安乖雅
制衣如歷山登樓蓋無無孫王
之巧臨江汎海慨無未郭之
才將詠溺之青柳蹟之言
之莫中欲賦瀍之白雪
鍾公爲之有制如是歎息
非一二又忽視暴慈之兇

凡　例

一　本巻には弘法大師空海の著わした詩文類のうち、二十四歳のときの処女作として名高い『三教指帰』三巻、『三教指帰』の別本であり、真蹟が現存する『聾瞽指帰』の一部、ならびに、高弟の真済の編集に成る、平安初期のわが国の各分野の情況を生き生きと伝える漢詩文集『性霊集』十巻、以上三篇の訓み下し文に現代口語訳と語注とを収めた。なお、『聾瞽指帰』は、『三教指帰』の本文と異なる冒頭の「序」と、末尾の「十韻の詩」の箇所のみを収めた。

一　それぞれの訓み下し文、口語訳、語注の作成にあたっては、長谷宝秀編『弘法大師全集』（増補第三版）を底本としたが、渡辺照宏・宮坂宥勝校注『三教指帰　性霊集』（日本古典文学大系71、岩波書店刊）、勝又俊教編修『弘法大師著作全集』第三巻（山喜房佛書林刊）、坂田光全『性霊集講義』（高野山出版社刊）、『聾瞽指帰』真蹟本、その他の諸本をも参照した。

一　本文は二段組みとし、上段に訓み下し文、下段にその口語訳を掲げた。また、『三教指帰』は、本文の構成を分かりやすくする目的で、適宜、本文の内容を分科し、段落を設けた。また『性霊集』は、多くの詩を含む関係上、巻末に本文に対応する原文を収めた。

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

〔訓み下し文〕

一　訓読は底本に付された訓みの他に、右に掲げた諸本の訓みを参照したが、訳者独自の判断によって、訓みを改めたところがある。

一　訓み下し文は、内容に従って適宜改行をほどこし、句読点・並列点（・）を入れて読みやすくした。また、底本で二行割書きとなっている箇所は、〈　〉を付して小活字で一行に組んだ箇所もある。

一　底本に使用されている古字・略字・俗字などの異体字は、おおむね正字体、もしくは現行の字体に改めた。

（例）沉→沈　決→決　踈→疏　虚→虚　导→碍　弃→棄　躰→体　薀→蘊　父→父　最→最
　　搆→構

なお、あえて通行の字体に改めなかったものもある。

（例）辯・辨（弁）　龍（竜）　廻（回）　燈（灯）　毗（毘）　慧（恵）　癡（痴）　雙（双）　堯（尭）　遙（遥）

一　訓み下し文のみ、仮名遣いをすべて歴史的仮名遣いとし、難読語、仏教独自の読み方をする言葉をはじめ、漢字にはできるだけ多くのふり仮名をほどこした。

一　漢籍や仏典などの書名には『　』を、引用文に相当する個所には「　」を付した。

〔口語訳〕

一　下段に掲げた口語訳は、上段の訓み下し文と対照しつつ読むことができるよう、できるだけ原文に忠実に、かつ平易な訳をむねとした。

一　訳文中の（　）は、文意をとりやすくするため、原文に相当するものがない語句を訳者が補ったことを示し、ま

た小さな（　）で挿入したものは、上の術語に対する簡略な説明である。

一　経論の名称や人名は、口語訳では通称に従い、また略称を改めた。

〔訳　注〕

一　難解な漢語や仏教の専門的な術語には、訓み下し文に指示番号を付して、『三教指帰』は各段落ごとに、『聾瞽指帰』はそれぞれの末尾に、『性霊集』は各巻ごとの末尾に一括して注記を掲げた。

一　本文中に典拠として出て来る漢籍や仏典などの引用個所については、注記に、漢籍は書名と篇目を、仏典は書名と『大正新脩大蔵経』の該当する巻数・頁数・上、中、下段の別を、（大正三九・五七九下）のように表示した。

一　本文に出てくる音写語は、注記にその原語（梵語）の音を片仮名書きとローマ字で掲げた。

目

次

凡　例……IX
三教指帰……山本智教　訳注……三
巻の上……五
序……五
亀毛先生論……一〇
巻の中……四四
虚亡隠士論……四四
巻の下……六三
仮名乞児論……六三
聾瞽指帰……村岡　空　訳注……一三
序……一三
十韻の詩……一四一
遍照発揮性霊集……一四五
序……今鷹　真　訳注……一四七
遍照発揮性霊集　巻第一……今鷹　真　訳注……一五七

山に遊びて仙を慕ふ……一五六
秋日神泉苑を観る……一六五
野陸州に贈る歌……一六六
雨を喜ぶ歌……一六九
良相公に贈る詩一首……一七三
山に入る興……一七四
山中に何の楽か有る……一七六
徒に玉を懐く……一七九
蘿皮函の詞……一八一
納涼房にて雲雷を望む……一八一

遍照発揮性霊集　巻第二……今鷹　真　訳注……一九一

沙門勝道山水を歴て玄珠を瑩くの碑……一九二
大唐神都青龍寺故三朝国師灌頂の阿闍梨
大和の州益田の池の碑銘……二〇三
恵果和尚の碑……二一〇

遍照発揮性霊集　巻第三……今鷹　真　訳注……二三九

勅賜の屏風を書し了へて即ち献ずるの表
幷びに詩……二四〇
るるを謝し奉る詩一首……二四八
中寿感興の詩……二四五
伴按察平章事の陸府に赴くに贈る詩……二四九
百屯の綿と兼ねて七言の詩とを恩賜せら
新羅の道者に与ふる詩幷びに状……二五三

遍照発揮性霊集　巻第四……金岡秀友　訳注……二六七

勅賜の『世説』の屏風書し畢つて献ずる
劉希夷が集を書して献納する表……二七二
表……二六八
雑書迹を奉献する状……二七四
国家の奉為に修法せんと請ふ表……二六九
筆を奉献する表……二七五

襍文を献ずる表 ……二九六
劉廷芝が集を書して奉献する表 ……二九八
春宮に筆を献ずる啓 ……二八〇
柑子を献ずる表 ……二八一
梵字幷びに雑文を献ずる表 ……二八三
元興寺の僧中璟が罪を赦されんことを請ふ表 ……二八七
天長皇帝の即位を賀し奉る表 ……二九一
小僧都を辞する表 ……二九二
李邕が真蹟の屏風を進る表 ……二九五
大徳如宝が為に招提の封戸を恩賜するを謝し奉る表 ……二九六
真能が右将軍に与ふるが為の啓 ……二九七
酒人の内公主が為の遺言 ……二九九
藤の真川が浄豊を挙するが為の啓 ……三〇〇
人の官を求むるが為の啓 ……三〇四

遍照発揮性霊集 巻第五 ……金岡 秀友 訳注……三三一

大使、福州の観察使に与ふるが為の書 …三三一
福州の観察使に与へて入京する啓 ……三三七
越州の節度使に与へて内外の経書を求むる啓 ……三三九
本国の使に与へて共に帰らんと請ふ啓 …三四七
青龍の和尚に衲の袈裟を献ずる状 ……三四九
橘学生、本国の使に与ふるが為の啓 ……三五一
藤大使、渤海の王子に与ふるが為の書 …三五二

遍照発揮性霊集 巻第六 ……金岡 秀友 訳注……三六七

桓武皇帝の奉為に太上御書の金字の法華を講ずる達嶰 ……三六八
天長皇帝、故中務卿親王の為に田及び道場の支具を捨てて橘寺に入るる願文 …三七二
天長皇帝、大極殿に於て百僧を屈して雩する願文 ……三七六

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com

右将軍良納言、開府儀同三司左僕射の為に大祥の斎を設くる願文……三六〇
東太上、故中務卿親王の為に檀像を造刻する願文……三六五
藤大使中納言、亡児の為に斎を設くる願文……三六七
文闕……三六八
式部笠丞が為の願文……三六八
藤中納言大使の為の願文……三九〇
藤大使亡児の為の願文……三九二

遍照発揮性霊集　巻第七……金岡照光　訳注……四一七

四恩の奉為に二部の大曼荼羅を造る願文……四一八
故の藤中納言の為に十七尊の像を造り奉る願文……四二三
笠大夫、先妣の奉為に大曼荼羅を造り奉る願文……四二五
僧寿勢、先師が為に忌日に料物を入るる願文……四二九
和気の夫人、法花寺にして千燈料を入れ奉る願文……四三一
前の清丹州の亡妻の為の達嚫……四三三
平城の東大寺にして三宝を供する願文……四三五
荒城大夫、幡の上の仏像を造り奉る願文……四三六
智識の華厳会の為の願文……四三九
葛木の参軍、先考の忌斎を設くる願文……四四一
管平章事の為の願文……四四四
田の少弐が先妣の忌斎を設くるが為の願文……四四八

続遍照発揮性霊集補闕鈔　巻第八……金岡照光　訳注……四八三

大夫笠左衛佐、亡室の為に大日の槙像を造る願文 ……四八四
藤左近将監、先妣の為に三七の斎を設くる願文 ……四八八
播州の和判官が攘災の願文 ……四九〇
林学生の先考妣の忌日に仏を造り僧に飯するの願文 ……四九二
弟子の僧真体、亡妹の七七の斎を設け、幷びに伝燈の料田を奉入するが為の願文 ……四九五
弟子の僧真境が亡考の七七の斎を設くるが為の願文 ……四九八
招提寺の達嚫の文 ……五〇〇
亡弟子智泉が為の達嚫の文 ……五〇三
弟子求寂真際が冥扉に入るが為の達嚫の文 ……五〇九
孝子、先妣の周忌の為に両部の曼荼羅『大日経』を図写し供養して講説する表白の文 ……五一一
忠延師が先妣の為に『理趣経』を講ずる表白文 ……五一三
三島の大夫、亡ぜし息女の為に『法華経』を写経し供養し講説する表白文 ……五一五
仏経を講演して四恩の徳を報ずる表白 ……五一八
先師の為に『梵網経』を講釈する表白 ……五一三
有る人、先舅の為に法事を修する願文 ……五一六
和尚、皇帝を祈りたてまつらんが奉為に『大般若経』を転読する願文 ……五二〇
有る人、亡親の為に法事を修する願文 ……五二一
有る人、先師の為に法事を修する願文 ……五二三
公家の仁王講を修せらるる表白 ……五二五
高野山万燈会の願文 ……五二八
勧進して仏塔を造り奉る知識の書 ……五三〇

続遍照発揮性霊集補闕鈔　巻第九　……牧尾良海　訳注……五九九

宮中真言院の正月の御修法の奏状　……五九〇

弘仁天皇の御厄を祈誓する表　……五九二

玄賓法師に贈る勅書　……五九三

大僧都空海、疾に嬰つて上表して職を辞する奏状　……五九四

勅答　……五九五

東寺の塔を造り奉る材木を曳き運ぶ勧進の表　……五九六

永忠和尚、少僧都を辞する表　……五九九

永忠僧都少僧都を辞する表の勅答　……六〇〇

紀伊国伊都郡高野の峯に於て入定の処を請け乞はせらるる表　……六〇一

高野の四至の啓白の文　……六〇三

鐘の知識を勧め唱ふる文　……六〇五

紀伊国伊都郡高野寺の鐘の知識の文　……六〇六

諸の有縁の衆を勧めて秘密蔵の法を写し奉る応き文　……六〇七

高野建立の初の結界の時の啓白の文　……六一三

高野山に壇場を建立して結界する啓白の文　……六一五

高雄の山寺に三綱を択び任ずるの書　……六一七

続遍照発揮性霊集補闕鈔　巻第十　……牧尾良海　訳注……六二三

綜藝種智院の式　……六二四

故の贈僧正勤操大徳の影の讃　……六五一

暮秋に元興の僧正大徳の八十を賀する詩　……六五八

秋の日、僧正大師を賀し奉る詩　……六六一

泰範、叡山の澄和尚に答するが為の啓書　……六六三

叡山の澄法師、『理趣釈経』を求むるに

答する書……六六七
還俗の人を見て作す……六六八
後夜に仏法僧の鳥を聞く……六七七
十喩を詠ずる詩……六七七
九想の詩……六八八
性霊集　原文……七二九
解　説……大一

第六卷　詩文篇二

试读结束：需要全本请在线购买： www.ertongbook.com